



学校教育へのAI導入が進む中、本町の対応は

教育長＝「パイロット校」の研究推移を参考にAI導入を検討

問

5月31日の民友新聞に、

いわき市の内郷一中が、教育活動や校務で生成人工知能AIを活用する文部科学省の『生成AIパイロット校』に指定された。県内の小中学校の指定は初めてで、教科を問わずに生成AIに触れて生徒の情報活用能力を高めるとあります。今後、文科省からの国内全ての学校への関連の指導を待つことなく、本町独自にAI導入を進める他校の情報収集、研究し、AI導入を進めるべきと考えますが。

教育長

今、学校では児童・生徒の学習効率を向上させることで、学習の充実を図るため、様々な教育プログラムや、アプリケーションを積極的に導入するなど、既に導入されているタブレット端末を活用し、現場の

教育力を強化していく考えです。生成AIの導入にあたっては、国のガイドライン「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」において、生成AIは急速に発展しており、教育現場での活用について、利点と懸念の両方が存在する中で国として一定の考え方を示しています。主に、文章生成AIを扱う学校関係者を対象としており、このガイドラインは、今後のさらなる検討や社会状況の変化に応じて、機動的に改訂される予定であり、生成AIの普及を踏まえ、求められる資質能力や教育の在り方についても、今後の検討課題とされています。

今後、AI導入の検討を進めていく段階において、AI関連企業や他校との情報収集などの研究も必要になってくると考えます。

教育長

今後、AI導入の検討を進めていく段階において、AI関連企業や他校との情報収集などの研究も必要になってくると考えます。

今後、AI導入の現場をより良くするための技術的な進展に注目しながら生成AIが急速に普及する時代の中で、国のガイドラインの改訂内容やガイドラインに沿って事業を展開していく「生成AIパイロット校」の研究推移他の先行事例を参考にしながら、生成AIの導入について検討してまいりたいと考えております。

文科省の指導を待つことなく、本町独自に情報収集、研究し、導入を進めるべきでは



5月31日の福島民友新聞

【その他の質問】

・町民の安心安全を守るために
防災無線子局マストに防犯カメラの設置は

・分散から寄り添い助け合い生活できるコンパクトな町の実現は